

世界ウイグル会議の紹介

1. 世界ウイグル会議の団体概要

団体名	世界ウイグル会議 (World Uyghur Congress, WUC)
事務所	本部：ドイツ・ミュンヘン 各国事務所：ベルリン事務所、ロンドン事務所、ワシントン事務所
連絡先	Tel: +49 89 5432 1999 Fax: +49 89 5434 9789 E-mail : contact@uyghurcongress.org HP: https://www.uyghurcongress.org
総裁	ドルクン・エイサ (ドイル在住)
設立	2004年4月
傘下団体	世界18か国で33のウイグル人団体を傘下に置いている。 日本における傘下団体は、日本ウイグル協会となっている。

2. 世界ウイグル会議の主な活動

世界ウイグル会議は様々な国際的な場で活動し、様々なプロジェクトに取り組んでいる。

- 国際連合に対しては、ウイグル人の人権状況改善のため具体的な行動を取るよう促している。国連の人権理事会や常設フォーラムなどに参加し、発表や会議、サイドイベントの開催など行っている。また、人種差別撤廃委員会などの各種委員会、国連特別報告者や作業部会への情報の提供や、関係者との定期的な会合を開いている。普遍的定期審査でこれまで中国が審査を受けたのは3回であるが、いずれに対してもWUCはウイグルに関する報告書を提出しており、中国への勧告に反映させた。
- 欧州連合 (EU) はこれまでも中国の人権状況に強い批判をしてきており、WUCはEU議会や欧州対外行動庁 (EEAS) の議員や関係者と深く関わっている。代表なき国家民族機構 (UNPO) ではEUの議員と定期的に会合を開き、ウイグル問題についての情報を提供している。
- 各国政府に対し情報を提供し、中国政府の人権侵害への具体的な行動をとるよう促している。各国にあるウイグル人組織と連携しながら、ウイグルの危機的状況に対処するべく、地方から国、国際レベルでの、公務員や一般市民の認識を高め、協力を得るために活動している。各国の国会議員と連携し、ウイグル友好のグループが各国で設立されている。
- 広く一般の市民がウイグル問題を認識し、彼らの共感を得るために、デモや集会を行い、また市民団体が主催する会議やイベントでウイグルの情報を提供している。研究者、政府関係者、人権活動家、ジャーナリスト、弁護士、ウイグル人コミュニティのリーダーなどと協力している。
- 定期的に世界中のウイグル人に呼びかけ、重要問題の周知、過去の出来事の記念する世界一斉のデモを行っている。
- 将来を担うウイグルの若者を育成し、地域、国、国際レベルで人権活動を展開するために必要なスキルと戦略を得るようトレーニングを行っている。2006年から全米民主主義基金(NED)からの財政支援を得ている。
- ウイグル文化、アイデンティティおよび言語が脅威にさらされているため、WUCは海外移住者におけるウイグル文化の継承を促している。重要な宗教的および文化的な祝賀やイベントを行っている。
- ウイグル人が直面している人権侵害を記録する研究を行っている。WUCの研究者らは、テーマ別の問題に関する報告書を起草し、年次人権報告書を作成している。特に国連に提出された報告書は、東トルキスタンの状況に対する認識を高めるのに役立った。
- ウイグル人の庇護希望者や難民は脆弱であり、中国に強制送還される危険がある。WUCは、UNHCRや各国政府、移民当局と協力して、ウイグル人が中国に送還されないよう支援し、行動を起こしている。

世界ウイグル会議総裁 ドルクン・エイサ氏のプロフィール

- ・ドルクン・エイサ (Dolkun Isa)
- ・1967年、ケルピン県生まれ (ウイグル南部の町)
- ・世界ウイグル会議 (WUC) 総裁
- ・代表なき国家民族機構 (UNPO) 副総裁
- ・ドイツ・ミュンヘン在住 (ドイツ国籍)

・新疆大学 (ウルムチ、物理学を専攻)、北京外国語大学 (北京、英語とトルコ語を専攻)、ガジ大学 (トルコ・アンカラ、社会政治学を専攻、修士号取得) を出ている。また、ドイツでコンピュータ科学の学位も取得。
・ウイグル語、中国語、英語、トルコ語、ドイツ語など複数の言語を使いこなせる



2019年6月、アメリカ議会で民主主義賞を受賞するドルクン・エイサ総裁 (左から二番目)

ドルクン・エイサは、1988年6月 (天安門事件の前の年) にウルムチで複数の大学の学生らが中心となって行った反民族差別や民主化を求める大規模な学生デモのリーダーだった。デモを行った大学生らの代表として政府高官らと長時間交渉したが、結果として協議が破綻し、デモが鎮圧された。そして、学生運動を指導したとして、30数回の尋問と数か月間の自宅軟禁の末、卒業を目前にした1988年9月に学籍剥奪処分を受けた。

1990年、ドルクンは、ウイグル人が自らの歴史書を堂々と読むことも出版することもできないことに憤りを抱き、発禁処分を受けていたウイグルの歴史書を北京で地下出版し、有志らに配布するなどの活動を続けた。同じ活動をしていた知人らが相次いで政治犯として逮捕され、自身にも身の危険が迫ったため、1994年にトルコへ脱出した。そして、「東トルキスタン学生連盟」を結成し、トルコや中央アジア諸国で政治運動を展開した。1996年にドイツに亡命した。

ドルクンは、ウイグル問題の国際化を進める上で、運動の理論的方針を立てて指令を発する世界的組織の結成が必要と考え、世界11か国のウイグル人団体を集め、1996年11月に、今の「世界ウイグル会議」の前身である「世界ウイグル青年会議」をドイツで結成した。2004年までは、この団体が国際舞台で最も活動実績を収めたウイグル人団体となり、ウイグル問題の国際化が進んだ。

ドルクンは、2004年4月に、「世界ウイグル青年会議」と「東トルキスタン民族会議」が合併し、「世界ウイグル会議」を結成する上でも重要な役割を果たした。初代総裁エリキン・アリプテキン氏 (2004～2006)、2代目の総裁ラビヤ・カディール女史 (2006～2017) の下で、秘書長や実行委員長などを務め、世界ウイグル会議の実務を担ってきた。世界ウイグル会議結成後に、ウイグル問題の国際化が大きく前進した。ドルクンは、2017年11月の第6回総会の選挙で世界ウイグル会議の3代目の総裁に選出された。

ドルクンは、一貫してウイグル人の権利を主張し、国連や各国議会などの国際舞台で問題解決を訴えてきた。ウイグル問題の平和的解決を目指す国際舞台での活発な活動実績が評価され、2016年3月、アメリカの非営利教育機関「共産主義の犠牲者記念財団」が贈る人権賞を受賞した。また、2019年6月、アメリカ議会が運営する非営利団体「全米民主主義基金 (NED)」が贈る民主主義賞を受賞した。